

『第9回小野ハーフマラソン 2022』を支援して



東播支部は公益社団法人として地域事業を積極的に支援し、隊友会の認知度を高めることを目的に、令和4年12月4日（日）に実施された『第9回小野ハーフマラソン 2022』を石田支部長以下15名の会員で支援しました。

当日は、雨天の予想を覆した曇り空で、気温も11度から13度と、絶好のマラソン日和となりました。完走者数はハーフマラソンが2,893名（男子2,298名、女子541名）、小学校高学年1.5kmに140名、小学校低学年1.5kmに181名、5km走445名（男子257名、女子188名）と多数の選手が参加の下、盛大な行事となりました。

当日は、9時頃から開会式が行われ、協賛企業の代表挨拶、蓬萊小野市長の挨拶、そして大会会長の赤星憲広さん（阪神タイガースOB）が挨拶を行いました。大会アンバサダーとして狩野恵輔さん（阪神タイガースOB）、ゲストランナーに宇田秀生さん（東京2020パラリンピック トライアスロン 銀メダリスト）、小野市出身 小林祐梨子さん（北京オリンピック 5,000m出場、元1,500m日本記録保持者）、同じく小野市出身 野上恵子さん（2018年ジャカルタアジア競技大会マラソン銀メダリスト）の他、5km走にT一岡田さん、ハーフマラソンに阪神タイガースやオリックスバファローズからOBや現役選手がたすきリレーで参加し、大会を盛り上げておられました。

自衛隊関連の支援では、青野原駐屯地（第8高射特科群）の隊員には、先導者及び最終伴走車の支援、並びに各ポイントの状況が無線で掌握するという任務が与えられていました。

兵庫地方協力本部も白テントブースにおいて募集案内を行うほか、グッズ配布などで自衛隊に対する興味を持ってもらえるよう広報がなされていました。

今年の東播支部会員の支援任務は、スタート・ゴール地域の誘導を兼ねた警備、完走者の対応、ハーフマラソン完走者へのマスク配布を支援しました。朝8時頃から準備し、9時30分にハーフマラソンがスタートで、最終完走者が12時30分となりました。約5時間立ちっぱなしの支援活動は、なかなかの重労働であるため、出来るだけ若い会員への声掛けを行ったことで、大会の円滑な運営に寄与することが出来ました。

開会式での市長挨拶において「来年は、第10回という節目の大会であり、今年よりも盛大な大会を目指す」とのお言葉もあり、今年の東播支部の支援活動が信頼に足ると、大会運営側に認識されていれば、来年はもっと重要な役割が与えられるのではと考えています。重要な役割が付与されることになれば、支援人員も多く必要となることも予想されることから、会員の行事参画意識の高揚が重要になると考えています。会員皆様の支部活動への更なる積極的な参加を心からお待ちしています。

隊友会東播支部事務局長



ハーフマラソンスタートの瞬間

完走者へのマスク配布



ゴール地点の誘導